きょうの紙面

4　核禁止会議 日本不在で開幕
9　抑草ロボで無農薬酒米
19　吉田 秋田で白星ならず
23　不登校生 夜間中学入学へ
24　山形駅前 遺族支える有志
地域…13 14 15 16　おくやみ・残席…22

ピックアップ　ホタルブクロ かれんに

天童市の若松寺境内で、ホタルブクロ（蛍袋）が咲き始めた。下向きに開く花に子どもたちがホタルを入れて遊んだと伝わる梅雨時の花で、細い釣り鐘のような姿が風に揺れている。26

いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。
1.5℃の約束
SDG MEDIA COMPACT

6月

日	月	火	水
29	30	31	1
5	6	7	8
12	13	14	15
19	20	21	22
26	27	28	29

今夏の参院選を皮切りに、来年の統一地方選、そして2024年の参院選と、7月11日の投開票日に向けた選挙戦が始まる。勝敗の鍵を握る全国32の改選1人区で野党の候補者一本化が限定的となる中、県選挙区（改選数1）では野党共闘が実現せず、前回（2019年）の3人を上回る現新5人が出馬を見込む。新型コロナウイルス対策や物価高騰への対応、憲法改正と安全保障の在り方などが問われる。

＝2、3、25面に関連記事

県選挙区に立候補を予定するのは国民民主党現職の舟山康江(56)、自民党新人の大内理加(59)＝公明党推薦、共産党新人の石川渉(48)、NHK党新人の小泉明(51)、政治団体「参政党」新人の黒木明(48)の5氏。各陣営は22日に県選挙管理委員会に立候補を届け出た後、いずれも山形市内で第一声を上げる予定。

舟山氏は山形市内で故鹿野道彦氏を墓参し、午前8時に同市のパレスグランデールで出陣式。第一声を上

県区立候補予定者（改選数1、敬称略）

舟山　康江	56	党筆頭副代表	国民現
大内　理加	59	元県議	自民新＝公明推
石川　渉	48	政党役員	共産新
小泉　明	51	発酵料理研究家	N党新
黒木　明	48	会社員	諸派新

見極めて　あなたの思いを　託す人

2022参院選 本社公募特選標語

特選標語の作者

鶴岡市東岩本、会社員安野健さん(57)　生活と政治は無関係ではない。ただ投票するだけでなく、しっかり公約を見極めて日本の未来を考えてほしい。

明日につなぐ 地域医療

本県から探る在り方

鍵握る 県民の選択

第6部 未来を見据え ⑤ 病床・病院の再編統合

団塊の世代全員が75歳以上の後期高齢者になる2025年が目前に迫っている。本県人口は100万人を切ろうとしており、問題を先送りするほど、状況は悪化する。医療機関、人材がこれ以上〝自然減少〟してから、国・自治体財政がこれ以上悪化してからでは、将来に持続できる医療介護供給体制の構築は困難になる。

「不満を感じる高齢者もおられるだろうが、病院を再編し、機能分担しないと各地域の医療体制を維持できない」と中目千之(なかめちゆき)県医師会長(74)は警鐘を鳴らす。病床の役割分担・再編は一定程度進んでいるが、病院の統合となると動きは鈍い。県内の病院の協力を得て、患者の受診動向と、将来必要な医療供給体制についての分析を山形大に委託している県は「役割分担と連携を検討する中で、必要な地域では再編・統合を選択する順序」と前置きした上で「地域ごとに議論が進むよう、今後も積極的に現状のデータ、見通しを提供していく」と答えた。

身近な病院がなくなるなどした住民に、新しい交通システムやデジタル技術を活用した遠隔診療、在宅医療の提供など、医療へのアクセス向上対策を打つ必要もある。

この問題の重要性を多くの関係者が認識している。しかし、待ったなしの状況と理解し、ベクトルを合わせて進むのは難しい。身を切るのはもっと難しい。病院の再編統合は地域づくりと切り離せず、複数市町村が絡めば、なおさら政治判断がなければできない。それには住民理解が不可欠だ。

庄内の地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネットは「国や既存制度が悪い」と誰かのせいにせず、「地方では仕方ない」と諦めず、自分たちがやるべきことと多くの改革を実現していった。子ども、孫の世代に負の遺産を残すのか、未来に続く新たな医療体制を残すのかは、県民の選択に懸かっている。

26面に続く

標旗など選挙の「七つ道具」の交付を確認する県選管職員＝県庁

届け出 流れ点検　県選管リハーサル

県選挙管理委員会は参院選の公示を翌日に控えた21日、県選挙区の立候補届け出会場となる県庁講堂で受け付け事務のリハーサルを行った。

高梨和永県選管書記長が「正確で円滑な受け付け事務を確認してほしい」と話し、リハーサルを通じて留意点を入念にチェックするよう求めた。担当職員24人が、届け出の順番を決めるくじ引きから届け出の受理、選挙事務所標札や街頭演説用標旗、腕章などの「七つ道具」の交付まで、手続きの流れを点検した。

県選挙区の立候補届け出の受け付けは県庁講堂で22日午前8時半～午後5時となっている。（田中大）

夏休みミッドナイト・ツアー

小学5年～中学生対象　本紙の制作現場見学

山形新聞社は、7月23日に山形市の山形メディアタワーと天童市の印刷センターで、深夜の新聞作りの現場を見学する「山形新聞夏休みミッドナイト・ツアー」を開催します。新型コロナウイルスなど感染症予防に配慮した運営を行い、小学5、6年生と中学生を対象に参加者を募集します。保護者同伴が条件。応募多数の場合は抽選とします。参加は無料ですが、事前申し込みが必要です。6月30日までお申し込みください。

来月23日に開催

◇**日時**　7月23日(土)午後9時、山形メディアタワー(山形新聞本社)1階ロビー集合

◇**内容**　ロビーでビデオ観賞（受付時）▽歓迎セレモニー▽新聞の読み方講座▽編集局、DX推進局等で新聞制作の現場見学▽マイクロバスで印刷センターに移動し輪転機見学▽メディアタワーに移動し解散（午前1時ごろ）

※見学会の記事掲載紙をその場でプレゼントします。

◇**対象**　小学5、6年の児童と中学生、保護者

◇**募集期間**　6月22日(水)～30日(木)

◇**申し込み**　ファクスか本紙ホームページの申し込みフォームで受け付けます。参加希望者全員の氏名(振り仮名付き)と年月日、住所、保護者の携帯電話番号、児童生徒の学校名と学年を明記。山形新聞社編集局「夏休みミッドナイト・ツアー」係へ。ファクス023（641）3106

◇**問い合わせ**　山形新聞社編集局編集庶務023（622）5385（午前9時30分～午後5時）

山形新聞社

補正予算など17議案を可決

県議会6月定例会閉会

県議会6月定例会は21日、2022年度一般会計補正予算など17議案を原案通り可決した。国の水田活用の直接支払交付金見直しに関し、交付対象の水田を畑地化した場合は畑作物の直接支払交付金の拡充などで対応するよう求める請願1件を採択、政府への意見書提出の発議1件を可決し、閉会した。

22年度補正予算は、ウクライナ情勢や円安基調などを背景とした物価高騰、新型コロナウイルス対策関連事業費など54億2400万円を追加し、総額6900万円を積む。

談話室

〈2022年6月22日〉

▼▽高畠町も登場する全キュメンタリー映画「いきます」シリーズで知らオオタヴィン監督は、近子どもたちの主体的な学びを重んじる学校にカメラた。「夢見る小学校」がそれである。

▼▽メインは山梨県にある「南アル子どもの村小学校」。教科別の授業く、児童は農業や木工、食の研究自が選んだ体験学習を通じて学びる。活動には学年の垣根もない。生きとした表情が印象的だ。事情を知ければ、遊んでいるとしか見えない

▼▽同校は子どもの個性と自由を尊重する。学習計画や行事の内容員を含む全員の話し合いで決められが同じ一票の権利を持つ。自由の下権者意識も育つシステムだ。映画で進的な公立校の実践も紹介される。改革は大人側の志次第と言えようか

▼▽18歳になった俳優鈴木福さんのタビューが過日、本紙に載った。が義務や強制に縛られずに『何かを で考え、気付ける』場所になると良 思います」。参院選を前に、政治に することとして語った。同じ思いで を見守る若者たちは少なくなかろう

（小田信博、伊豆田拓）

情報をいち早くキャッチ！
山形新聞　検索　おすすめ
重大ニュースを収録　電子速報版

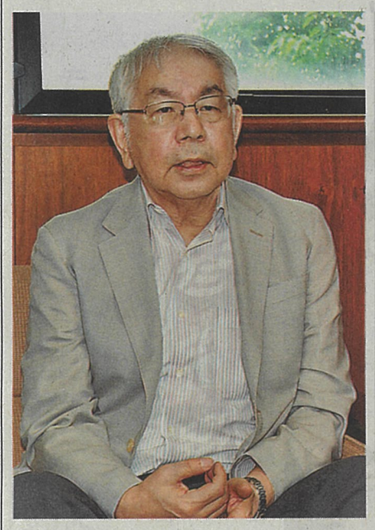
明日につなぐ 地域医療

本県から探る在り方 完

第6部 未来を見据え ⑤ 医療人インタビュー㊦

全県俯瞰して未来図を

日本海ヘルスケアネット 栗谷義樹代表理事（75）



1面から続く

未来に続く医療介護供給体制を構築するには、何をすべきなのか―。庄内で11法人が参加する地域医療連携推進法人・日本海ヘルスケアネットの代表理事で、中核となる日本海総合病院（酒田市）を運営する県・酒田市病院機構理事長の栗谷義樹氏（75）に聞いた。

◇

―地域医療の現状はどのくらい厳しいのか。

「健全経営と人材確保をしながら、入院医療の提供を狭い地域で維持するのはもう不可能。いつまでも充実したサービスを求め、提供するだけの議論をしているのは地域や国を滅ぼすに等しい。この国の持続性と医療の持続性は同じ話。医療改革は財源とセットで行わなければならない」

―日本海ヘルスケアネットは、地域の医療・介護の施設が役割を分担し、地域内で診療報酬が再配分される仕組みをつくった。

「実際にお金は配分できないので業務を調整し、人工透析や手術の集約化など、役割分担をした」

―患者に対して最も有効で経済的な医薬品の使用方針を決めた全国初の地域フォーミュラリも展開する。

「ネキシウムという胃潰瘍、逆流性食道炎の薬は、英国の製薬会社の製品だが、当の英国では国が定める推奨リストに入っていないのに、日本ではたくさん使われている。薬剤だけでなく、情報システムも改善すべき点は多い」

―地域医療を守り、連携する上で重要なことは。

「財源が限界に近づいている現状では、守るものと変えるものを選択しなければならない。理論と実践の間には大きな溝もある。有言実行で信頼関係を構築することが重要で、経営の健全化は欠かせない。あとは地域の未来図をどう一緒に描けるかだ。外部環境の変化に対応しながら（住み慣れた地域で医療、介護、生活支援サービスを切れ目なく受けられる）地域包括ケアの実現をどう現場に落とし込むか、ビジョンを共有しなければいけない」

―連携を広げるには。

「十分時間をかけて丁寧に説明して、という余裕は既にない。2030年以降、団塊の世代の多くは亡くなり、急性期医療の需要は大きく下がる。介護施設に転換するとしても、療養病床も維持できる基準が厳しくなって量的規制が進み、逃げ道はない。日本海ヘルスケアネットの仕組み、やり方も、このままでいいとは思っていない。早急に、40年ごろまでの持続可能な計画を広域でつくり、30年になったら50年までの計画を考え、計画はこまめに更新する必要がある」

―今後の展望は。

「未来図を描く時は、地域内での主導権を誰が握るかという議論がどうしても出てくるが、そんなことを言っている間に残り時間はほとんど失われてしまう。庄内では30年ごろをめどに、日本海総合病院と鶴岡市立荘内病院は一緒になるべきだと思う。次世代がそのために団結して進んでほしい。庄内だけでなく、県内全体で俯瞰して見ていかなければならない。そのための新たなプラットフォーム が必要で、大学病院を核に関連の基幹病院と新しい事業体をつくり、ハブ機能を基幹病院に置き、過疎地域の医療に責任を持たせるべきだと考えている。ICT（情報通信技術）や、訪問看護・訪問医療など既存の仕組みも活用していかなければならない」

（この企画は報道部・坂本由美子、佐藤裕樹、酒田支社・秋葉宏介、井上萌々子、米沢支社・大坪千絵が担当しました）

里山こん

出版した「森に暮らす」を手にする黒田三佳さん＝米沢市

た里山の魅力を、〝ゾムリ〟や「人と人とのコミュニテ

発信する源は「自分の人生を豊かにしてくれた感謝」という。「当たり前にあり過ぎて、気付かれていないものもある」と、地元、県内の人に読んでもらいたいと思う一方、「英訳して海外にも届けたい」とも考えている。

A5判、オールカラー210㌻で1500円。県内書店などで扱う。問い合わせは山形会議パブリッシング023（677）1181。（阿久津誠）

「勇敢さを示したかった」

世界水泳・AS ウクライナチーム「金」

水泳世界選手権アーティスティックスイミングのフリーコンビネーションで金メダルを獲得したウクライナ（中央）＝20日、ブダペスト（共同）

【ブダペスト共同】ブダペストで行われている水泳の世界選手権で、ロシアの侵攻を受けるウクライナの選手たちが複雑な思いを抱えながら奮闘している。20日、アーティスティックスイミング（AS）のフリーコンビネーションで、今大会初の金メダルを獲得。中心選手のマリナ・アレクシーワは「ウクライナの人間の勇敢さを示したかった」と誇らしげだった。

＝19面に関連記事

「花火だ」。すさまじい爆発音に、マリナの双子の妹ウラディスラワは勘違いして声を張り上げた。2月下旬、ASの選手たちが練習拠点としていた東部のハリコフは激しい砲撃を受けた。

戦禍で代表チームは活動が不可能に。約2週間後、家族を残してイタリアへ渡り、練習を再開。世界選手権に向けて急ピッチで調整を進めた。

陽光の下で選手たちは明るい笑顔を見せつつも、時に悲愴感を漂わせる。18日にソロ・テクニカルルーティン（TR）で銀メダルをつかんだマルタ・フィエディナは大会前に母と約3カ月ぶりに会って「小さな赤ちゃんみたいに泣いた」という。好成績を挙げても「戦争は終わっていない。素直には喜べない」と吐露する。ブダペストで家族と再会した若手選手が感傷的になり、コーチの判断で19日のチームTR予選は棄権した。

20日、10人で演じるフリーコンビネーションで栄冠を勝ち取り、アレクシーワ姉妹やフィエディナらが表彰式で国歌を感慨深そうに聞いた。チームで統一されたジャージーを持ち合わせずに大会へ入り、表彰式で選手たちが着た「UKRAINE」と胸部に記された白いTシャツも19日に母国から届いたばかり。急場しのぎでサイズも合っていないが、マリナは「サイズは小さいけど、うれしい」。愛する祖国への誇りを胸に、泳ぎ続ける。

風に揺れる 白い釣

天童市の若松寺境内で、ホタルブクロ（蛍袋）が咲き始めた。下向きに開く花に子どもたちがホタルを入れて遊んだと伝わる梅雨時の花で、細い釣り鐘のような姿が風に揺れている。

咲いてい
で、県が選
景観物語・
イント」の
ている。初
を見たとい
「珍しい花か

選手強化や競技普及 本年度事業を決める

県ラグビー支援する会

県内の有志企業などでつくる「山形県のラグビーを支援する会」の総会が21日、山形市のパレスグランデールで開かれ、本年度の事業計画を決め、選手強化や競技普及を支援していくことを確認した＝写真。

活動資金が選手の負担になっている年発足した人の関係者一郎会長（長）が「選できる環境し、全国でていこう」ラグビーフに支援金を

ロシア紙編集長、NYで

平和賞メダル140

ウクライナ避難

米ニューヨークで、競売終了後、編集長を務める新聞「ノーバヤ・ガゼータ」を掲げるドミトリー・ムラトフ氏＝20日（ゲッティ＝共同）

【ニューヨーク共同】ロシアの独立系新聞「ノーバヤ・ガゼータ」のドミトリー・ムラトフ編集長が受賞したノーベル平和賞のメダルが20日、米ニューヨークで競売にか
50万ドル（
で落札され
らかにされ
金はロシア
攻で国内外
なくされた
する国連児
フ）に寄付
出品した
売会場で「
にすること
が、この資
る人たちの
とあいさつ
助け」に対
るのだと思
によるもの
調した。

競売は78
ら始まり、
インターネ
が繰り返さ

ジャンタル・マンタル（EPA時事）